

## 令和7年度 茨木っ子アンケートの結果について

学校教育推進課

### ○はじめに

子どもたちがここから先予測困難な社会を生きていくためには、新たなことを創造する、他者と共同して取り組む、困難にくじけず乗り越えるなど、テストで図ることができない力（非認知能力）が必要とされています。

茨木っ子プランミつくるでは、これまで育成してきた「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の4つの力を子どもたちが自分らしく生きていくために必要な力という視点で捉えなおし、「茨木っ子力（子どもたちに育みたい非認知能力）」とし、その育成を最重点の1つとして取組んでおります。

名称	定義	目指す姿
ゆめ力	未来に向かって、努力できる力	夢や目標を持つことができる（目標設定）
		夢や目標に向けて挑戦することができる（チャレンジ）
		あきらめず最後まで取り組むことができる（継続・レジリエンス）
自分力	自分と向き合い、高める力	自分のことを肯定的にとらえることができる（自尊心・自己有用感）
		自分の感情をコントロールすることができる（自己抑制）
		自分の考え方や判断に自信を持つことができる（自信）
つながり力	他者を思いやり、つながる力	他者と協力して取り組むことができる（協力）
		他者の意見や考えを受け入れることができる（リスペクト）
		自分の考え方や気持ちを他者に伝えることができる（コミュニケーション）
学び力	興味関心を広げ、意欲的に学ぶ力	様々なことに興味関心を持つことができる（興味関心）
		疑問や不思議に感じたことを解決するために行動することができる（課題解決）
		学びや経験を新しい考え方や行動につなげることができる（振り返り力）

また、今の子どもたちの生活は、インターネットやスマートフォンを切り離して考えることはできません。そのような環境において、ネットやスマホの所持や使用を制限するよりも、子どもたち自らが適切な付き合い方を考えることが大切です。学校や家庭が連携して、子どもたち一人ひとりがインターネットやスマートフォンとうまく付き合う力を育てたいと考えています。

市教育委員会では、令和7年度に、市立小中学校において、茨木っ子アンケートを実施し、子どもたちの現状について調査いたしました。

今後、本調査結果を分析・検証し、茨木っ子力の育成やネットリテラシー教育の取組みに生かします。

○調査内容（調査対象）

①茨木っ子力（非認知能力）に関する調査（小学校4年生～中学校3年生）

各設問に対するそれぞれの回答を次のように得点化しています。

とてもあてはまる（3点）

どちらかといえばあてはまる（2点）

あまりあてはまらない（1点）

あてはまる（0点）

それぞれの点について、基準点を1として、3つの質問項目の回答

により加算していきます。

全て「とてもあてはまる」と回答すると  $1 + 3 \times 3 = 10$  点

逆に全て「あてはまらない」と回答すると  $1 + 0 \times 3 = 1$  点となります。

②生活習慣に関する調査（小学校1年生～中学校3年生）

③インターネットに関する調査（小学校1年生～中学校3年生）